







中小企業景況調査の集計分析（2021.4～6月期）

全産業DI	全 国（n：約8,000社）			河辺雄和（n：15社）		
	DI	前期比	天気図	DI	前期比	天気図
売上額	△17.9	+31.0		△26.7	+46.6	
採算	△28.3	+14.2		△20.0	+33.3	
資金繰り	△18.4	+10.0		△26.7	+40.0	

全国の分析コメント

出典：全国商工会連合会「中小企業景況調査報告書」

- 全業種 ○ コロナ禍前の一昨年同時期（2019年4-6月期）の水準には戻っていないものの、主要3DIのいずれが2桁の幅で大きく改善した。
- 特に、製造業と小売業の売上額DI、製造業の採算DIの改善幅は顕著に表れている。
- 全体として今回の業況は前期と比較すると確実に改善している。
- △ 当期の経営の課題では、4業種全てで「需要の停滞」を挙げている。
- △ 世界的な原料高や輸送費の高騰、円安傾向などを背景に、原材料や仕入単価のコスト面の問題を挙げる経営者がすべての分野で増加した。
- △ **今後は資金繰り支援以外でも景況を回復させるための継続的な対策が求められる。**
- 製造業 ○ 業況の改善幅が大きい。特に売上額DIが顕著に改善している。
- 「輸送機械器具製造業」「パルプ・紙・紙加工品製造業」「プラスチック製品製造業」など幅広い業種で改善が見られる。
- △ 当期の経営上の問題点として、「原材料価格の上昇」が前期から6.1ポイント増加。
- 建設業 △ 当期の経営上の問題点では、「材料単価の上昇」が前期比11.2ポイントと大幅に増加。
- 小売業 -
- サービス業 ○ 当期の業況の改善幅が大きい。
- 特に売上額DIが前期比45.2ポイント上昇し顕著に改善している。
- （「宿泊業」は前期比72.2ポイント上昇、「飲食業」は同60.2ポイント上昇）

=天気図の解説=

				
DI30以上	DI10以上 30未満	DI△10以上 10未満	DI△30超 △10未満	DI△30以下

（注）DI（景気動向指数）は、各調査項目について増加（好転）企業の割合から減少（悪化）企業の割合を差引いた値を示す。